



岡山県立瀬戸南高等学校

園芸科学科通信 第5号

H24.3.26



1月18日には、3年生が1年間かけて自分たちでテーマを決めて取り組んできた「課題研究」の研究発表会を、果樹・野菜・草花の各類型別に、2年生が聴衆となって行いました。発表内容について質疑応答をして、3年生同士でお互いに成果を確認し合ったり、2年生がこれから始まる研究の参考にしたりしました。

1年生は、2年生から所属する類型が決まり、2月からは果樹・野菜・草花の3つの類型に分かれた実習が始まりました。いよいよ本格的な専門学習のスタートです。入学してもうすぐ1年ですが、気持ちも新たに、やる気にあふれているように感じます。

今年の冬は大変厳しい寒さでしたが、3月1日の卒業式の頃には寒さが和らぎ、園芸科学科の3年生2クラス、74名の卒業生が巣立っていきました。進路は就職では製造・販売系のほか卸売市場・造園・介護など、進学では4年制大学・短期大学・専門学校・農業大学校など様々ですが、植物を育てることをとおして身に付けた物作りに対する姿勢や、仲間と協力して物事に取り組むことができる力を生かして、社会に貢献できる人材として活躍してくれることを期待しています。

園芸科学科の1月から3月にかけての農場や学習の様子をご紹介します。

【果樹】

果樹では、野菜や草花のように毎年種まきをすることはありませんが、その代わりに「せん定」と言って、必要がなくなった古い枝を切り取って整理し、春になって芽が出て新しい枝を育てる準備をします。1月から2月にかけては、寒い中ですが、農業普及指導センターの先生にも教わりながら、モモやブドウのせん定を行いました。また、土作りのためたい肥を散布してスコップで畑の中に埋め込んだり、古くなったモモの木を2本切り倒し、新しい苗に植え替えたりしました。3月には、ブドウ園の屋根のビニール張りや、モモの花のつぼみを摘み取って数を減らしていく「摘らい」という作業をして、おいしいブドウやモモの収穫を目指して頑張っています。



課題研究発表会（2，3年）



モモのせん定（2年；外部講師授業）

【野菜】

野菜類型では、春から夏にかけての野菜の苗作りが始まりました。2月には、トマト・ナス・ピーマンなどの種をまきました。小さな種を1粒ずついいねいにまき、芽が出て葉が2～3枚出たら「鉢上げ」と言って、ポットに植え替えます。3月にはキュウリやスイカなども種まきをします。育てた苗は、4月21日（土）の「春の苗物販売会」で販売したり、本校で栽培する野菜の苗として使ったりします。また、ビニールハウスの中の畑の準備や、水耕栽培温室でメロンを育てるためのベッドの準備などをします。本校ではイチゴは栽培していませんが、外部講師授業でイチゴのパック詰めを行いました。



トマト苗の鉢上げ（1年）



イチゴのパック詰め（2年；外部講師授業）

【草花】

草花類型では、シクラメンの「交配」と言って、花の色や葉の形などが異なるシクラメンを作り出すための実験を行っています。まずは母親になるシクラメンの雄しべを取り除き（除雄）、次に父親となるシクラメンの花粉を母親の雌しべに付けます。どんな色や形のシクラメンが育つか楽しみですが、結果が出るまでには最短でも2年かかります。また、卒業式で本校の卒業生全員（153名）と3年担任に付けてもらうためのコサージュを、草花類型の1・2年生全員で作りました。さらに、春から夏にかけての草花の苗を育てるために、ポットに入れる土の蒸気消毒を行ったり、外部講師授業で備前焼きの鉢作りを行ったりしました。



シクラメンの除雄（1年）



備前焼きの鉢作り（2年；外部講師授業）